

原 著

## 再発難治性多発性骨髄腫に対し lenalidomide を使用した28例の検討

服部 友歌子<sup>1, 2)</sup>, 藤巻 克通<sup>1)</sup>, 石井 好美<sup>2)</sup>, 伊藤 仁美<sup>2)</sup>,  
大島 理加<sup>3)</sup>, 萩原 真紀<sup>3)</sup>, 松本 憲二<sup>2)</sup>, 小原澤 英之<sup>3)</sup>,  
橋本 千寿子<sup>4)</sup>, 酒井 リカ<sup>3)</sup>, 藤田 浩之<sup>2)</sup>, 原野 浩<sup>5)</sup>,  
小川 浩司<sup>5)</sup>, 富田 直人<sup>2)</sup>, 藤澤 信<sup>3)</sup>, 石ヶ坪 良明<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup> 藤沢市民病院 血液膠原病科

<sup>2)</sup> 横浜市立大学大学院 医学研究科 病態免疫制御内科学

<sup>3)</sup> 横浜市立大学附属市民総合医療センター 血液内科

<sup>4)</sup> 大和市立病院 血液内科

<sup>5)</sup> 横須賀市立市民病院 血液内科

**要 旨:** Lenalidomide (Len) は dexamethasone (DEX) との併用で多発性骨髄腫に対し優れた抗腫瘍効果を示す。今回我々は横浜市立大学リウマチ・血液・感染症内科関連施設で2010年7月から2011年3月までに Len を投与した再発難治性多発性骨髄腫28例の背景と治療経過を後方視的に調査した。観察期間及び治療サイクル数の中央値は120 (4-181) 日, 3 (1-6) 回であった。DEX 併用量は症例ごとに様々であった。高容量 DEX (480 mg/サイクル) 併用は2例のみであった。主な Grade 2以上の有害事象は好中減少, 血小板減少, 腎障害, 皮疹であった。血栓症は認めなかった。治療開始後100日の全生存率は81.2%, Partial Response 以上の奏効率は46.4%であった。28例中10例が無効又は有害事象のために治療中止となった。治療を継続できた18例中5例で Len を減量又は一時休薬し7例で DEX を減量した。今後, 有効症例を蓄積し効果と安全性を高めるような投与方法をさらに検討する必要があると考えられた。

**Key words:** レナリドマイド (Lenalidomide), 再発難治性多発性骨髄腫 (Relapsed or refractory multiple myeloma), デキサメタゾン (Dexamethasone)